

ミディトマト(促成栽培)

月	旬	作型	主要作業	栽培の要点															
8	上		定植準備	1. 品種 華クイン 華おとめ 2. 鉢上げ:(クイン)セル苗から9cmポットに仮植し、10日~20日程度育苗する。 (おとめ)セル苗を直接圃場に定植する(青枯病が心配な圃場はクインと同様に育苗する)。															
	中		定植																
9	上		支柱立て	3. 本圃準備 ・太陽熱・薬剤等で土壌消毒を行う。 ・たい堆肥施用 10a当たり3tの完熟たい肥と石灰窒素40kgを1ヶ月前に施用し深耕する。 ・基肥施用(施肥例)															
	中		芽かき・誘引																
#	上		交配	<table border="1" style="margin: 5px 0;"> <thead> <tr> <th>肥料名</th> <th>施用量</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>天 晴</td> <td>200kg</td> <td>N - 16</td> </tr> <tr> <td>石灰窒素</td> <td>40kg</td> <td>P - 19</td> </tr> <tr> <td>ミネリンパワー</td> <td>100kg</td> <td>K - 14.5</td> </tr> <tr> <td>塩化カリ</td> <td>20kg</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	肥料名	施用量		天 晴	200kg	N - 16	石灰窒素	40kg	P - 19	ミネリンパワー	100kg	K - 14.5	塩化カリ	20kg	
	肥料名		施用量																
天 晴	200kg	N - 16																	
石灰窒素	40kg	P - 19																	
ミネリンパワー	100kg	K - 14.5																	
塩化カリ	20kg																		
中	追肥	・畦立て 地下水に応じて高畦とし、根域を確保する。畦立て後、マルチを被覆する。																	
#	上		収穫始め	4. 定植 ・定植時期 8月下旬~9月上旬 ・栽植本数 2条2本仕立て、畦幅160cm×100cm 10a当たり960株															
	中		病害虫防除																
1	上		かん水	5. かん水 :活着までは株元に灌水し、多かん水は控える。 4段花房が開花する頃から草勢を落とさないよう少量多回数でかん水する。(4~5日おきに1リットル/株)															
	中		整枝・誘引																
1	上		交配	6. 交配 マルハナバチ 温度管理、薬剤散布に注意し、第1~3花房まではホルモン処理を行う。 マルハナバチを入れる際には、外部への飛来防止のため防虫ネットを設置する															
	中		トマトーン																
2	上		摘果	7. トマトーン 低温期100倍 高温期150倍で1花房につき1回処理する。高温時は濃度をやや薄目にする。 8. 摘果 第1花房は乱形果が多いため、果梗枝を除去し、第2花房から収穫する。 9. 摘葉 第2花房以降は草勢に応じて1花房10~15個を目安に摘果する。 下葉かきは収穫が済んだ花房までを行い、果梗枝も同時に除去する。 過繁茂になり、果実に光が当たらない時も軽めに摘葉する。															
	中		追肥																
3	上		追肥	10. 追肥 第4花房開花期から草勢を見ながら月に2回は液肥を施用(1回あたり窒素成分1kg/10a) ただし、草勢は、新葉から10cm下の茎径6~7mmを目安に追肥とかん水で調整する。															
	中		保温																
4	上		保温	11. 保温 2重カーテン、暖房により最低12 以上を確保する。 12. 病害虫防除 ・保温開始後は、病害の発生が助長されるため、ハウス内温度に注意しながら換気を行い、湿度の上昇を抑える。(かん水直後、曇天時が続く時は特に注意する。) 葉かび病、灰色かび病等の防除は、11月から薬剤の予防散布を行う。 ・トマト黄化葉巻病対策のため、側面には0.4mm~0.6mm、谷には0.8mm~1.0mmの防虫ネットを設置する。 また、薬剤のローテーション散布を行い、発病株については直ちに抜き取り、圃場外へ持ち出し適正に処分する。															
	中		裂果・乱形果対策																
5	上		裂果・乱形果対策	13. 裂果・乱形果対策 ・空中湿度を高くしない。 ・高温時、低湿時に発生しやすい。 ・草勢が強すぎるとできやすい。 ・土壌水分過多 ・適期収穫の励行															
	中		後かたづけ																
6	上		後かたづけ	14. 後かたづけ ・収穫終了後は、ハウスをいったん蒸し込み、害虫を死滅させてから片づける。 ・枯死株は土中に埋め込み、ハウス外に放置しない。															
	中		収穫終わり																
			後かたづけ																